

東京研修に参加して

私は、今回東京研修に参加して多くのことについて学び、そして体験した。その中でも、やはり三菱商事さんとのディレクトフォースが今でも頭から離れない。昨年の東京研修も参加した私にとって、今回の一般企業の方とのディレクトフォースは初めての挑戦であり、そして難関でもあった。そんな中、三人の社員の方から話を聞き、また二人の方とお話することができた。

まず、三人の方から順にお話を聞いた。一人目は若林さんという女性の方だ。水産部のサーモンについての取引を主に行っている人で、海外に行って仕入れをすることもよくあるという。サーモンは回転ずしのネタランキングでも堂々一位を取るほどの人気商品で、家計の魚の消費割合においても一位らしい。海外を相手にそんな人気商品にまつわる仕事をこなさなくてはならないというのはとても大変そうだった。だが、若林さんは自身が望んでいた様々な人とかかわる仕事できてとても幸せそうに見えた。私も自分が心から満足し、楽しめるような充実した仕事をしたいと思った。

次に、佐藤さんという男性の方からお話を聞いた。佐藤さんは高校三年生の時にドイツへ一年間留学したという。その一年間はとても実りあるものだったらしい。私は将来国内で活躍できるような職に就こうと思っていたため、海外留学は必要ないと考えていた。しかし、海外留学も案外よいものなのかもしれないと少し考えるきっかけをいただくことができた。そして、佐藤さんは資源が乏しい日本に安定した資源調達をするために、海外資源に投資をする仕事を行っているそうだ。毎年23万トン分のアルミニウムの権益を確保しているそうだ。また、日本では鉄の次にアルミが使われているのだが、アルミニウムとは電気を多く使う金属らしい。アルミ加工を手掛ける工場一社分で熊本県とほぼ同じくらいの電力を使う。佐藤さんは、この前までモザンビークへの駐在を命じられ、現地で働いていたそうだ。そこで行ったのは、アフリカ初となるアルミ事業への日本企業による投資であり、大規模な国家プロジェクトであった。そこではただアルミニウムを発掘、加工するだけでなく、地域への貢献事業も並行して行っていたらしい。年間200万ドルを提供し、これまでの提供金額の合計は3000万ドルを超えるものとなっている。佐藤さんは、何事にも挑戦することが大事であり、また、自分と違う文化も拒否して遠ざかるのではなく、しっかりと受け入れることが大切だと言っていた。確かにこの世界には様々な文化があり、習慣があり、考え方が異なるのだから、これからのグローバル社会を担う私たちは柔軟な思考力と、対応力が必要となるだろう。私はそれを念頭に置いて働こうと思う。

最後は木目田さんという人からお話を聞いた。木目田さんはCSR推進部というお金の循環を取り扱う部署で働いているらしい。そして東日本大震災のときも復興支援事業に携わっていたという。これまで1000億円を復興支援として使ったらしく、主な内訳としては、雇用拡大や産業の復興に当てる資金の寄付、ボランティアなどで、44もの会社を支援したそうだ。また、支援金の中には私たちによく関係している奨学金もあった。奨学金は私たちの学生生活にとっても密接しているものだから、支援をいただいていると聞き嬉しく思った。そして、このようにたくさんの方の支援をいただいているからこそ私たちの学生生活が成り立っていると思うと感謝の気持ちが溢れた。木目田さんによると、復興のプロジェクトを成功させるカギは「地元との信頼関係」にあるらしい。これはどんな物事にも共通することだと思う。私も何か物事を行うときがきたら、それに関係している人たちとの信頼関係をしっかりと結ぼうと思う。

次に、二人の方とお話することができた。ディレクトフォースの白方さんはロンドンで仕事をした経験があるということで、海外と日本における違いについて色々と聞くことができた。外国人は言いたいことを我先にと喋ってしまうために、日本人は他の人の意見を聞こうと黙っていると存在を無視されたような扱いを受けてしまうらしい。海外では、意見を言うことが自己主張の一つなのだろう。確かに、自分の確固とした意見を持って話すことは大事だし、日本では話し合いのときにだれも意見を出さないために気まずい沈黙が場を満たすことが多くある。海外ではそのようなことがないのだから、日本も見習うべきだろう。どんなときに英語を使うのが

大変かを白方さんに聞くと、病院へ行くときや急ぎのときらしい。日本語では簡単に表せる痛みが英語では途端に表現するのが難しくなるそうだ。その時、いかに相手へ伝えようという気持ちがあるかが大切だと言われた。曰く、伝えようという気持ちがあれば身振り手振りでどうにかなるらしい。だから、私もどうしようもないときは身振り手振りを交えながらもどうにかして伝えようという熱意を忘れないようにしようと思った。そうすればたとえ言葉が通じない人であっても、考えは通じ合わせることができると思う。

次にお話できたのは先ほど説明をしていただいた若林さんだ。若林さんとは女性であるということも相まってとても話しやすく、様々なことを聞いた。中でも、印象に残っているのは集団で話し合いするときの心構えである。そもそも集団でいるときには「みんなで〜する」を大事にすることが重要だという。また、人の話をちゃんと最後まで聞いて、一人ひとりのことをきちんと見てあげることも大事だと言われた。先ほどの白方さんの話でもあったが、互いの意見を交換させることはとても重要である。よって、交換させるのであれば、自分の意見だけを通すのではなく、他の人の意見も聞いて混ぜ合わせることでその案件はより良いものになるだろう。一人ひとりの意見をしっかりと聞くことをこれから話し合うとき念頭に置いておこうと思う。

今回一般企業に勤めている方、勤めていた方からお話を聞いてみて実感したのは皆様海外へ行った経験があるということだ。それは仕事であったり、留学であったり、理由は様々だけれども海外へ行くということが、その後続く重要な経験となって人生をより豊かにしているようにも見えた。私はこの年になるまで海外はおろか、日本国内だってまだ行ったことのないところがたくさんある。そんな私がこれからの日本を支えられる人材へとなり得るのだろうか。これからは日本国内もグローバル化していくと思われる。海外で働くことが要求されるだけではなく、日本国内でも外国人の方が増え、そんな方々を相手に毎日仕事をしなくてはならない。そのときに私は果たしてこのまま日本だけに目を向けていて大丈夫なのだろうか。日本国内でとどまるからといって、海外の情勢は気にしなくてもよいのだろうか。今回のこのディレクトフォースではこれからの私の行動を揺るがすような出来事が多々あって、学ぶべきこともまた多々あった。そして、私はまだ狭い視野でしか世界を見られていないことも明らかになった。私は今17歳である。これから社会人になるまでにはあと3年、大学を卒業して本当に日本の社会へと足を踏み入れるまでにはあと5年ほどある。その5年間をいかに充実させることができるのか。どれほど見聞を広めることができるのだろうか。日本で働くにしても、世界に目を向けていて損をすることはないはずだから、これからの5年間を大事に生活していきたいと強く思った。